

<h1>第 345 回 月例会議事録</h1>	安全技術応用研究会	
	承認	確認
	企画運営副委員長 保 科	企画運営委員 —

- ◎ 日 時 2022年6月17日（金）13時00分～16時30分
- ◎ 場 所 リモート開催（Zoom）
- ◎ 出席者 33名（企業・団体会員19名、個人会員13名、外部講師1名）

1. 開会挨拶・トピックス紹介

13:00～13:10 企画運営委員会

7月2日（土）に長岡技術科学大学 安全安心社会研究センター主催の特別講演会「情報技術・IoT・コンピュータ技術を活用した安全」が開催される。会場は田町グランパークカンファレンス、Zoomによる同時配信もあり、参加をお願いする。

6月18日（土）10時から企画運営委員・石原委員によるZoom講演「人は何故現場でルールを守らないのか」が開催される。事前申し込みは不要、参加をお願いする。

2. 講演「トヨタ自動車の設備安全の考え方や成り立ちについて」

13:10～14:10 トヨタ自動車（株）磯部和幸氏

トヨタ自動車は安全健康推進部が主体となり、製造者側の生産技術と使用者側の製造部門の両輪で機械安全を運用している。運用体制、運用手順、要員教育などを紹介していただいた。

意見交換

中小企業での運用、教育の頻度、社内基準と国際規格、などについて討議した。

3. 報告「漏電遮断器の使用方法について」

14:15～15:15 関西委員会 諸石弘司氏

産業機械に使用される漏電遮断器。その原理、選定及び使用方法について、意外に知られていない注意事項にも着目して、関西委員会でまとめたものを報告した。

意見交換

本テーマ選択の経緯、直流大電流の漏電、保護協調の設定、漏電遮断器の不動作、米国でのトリップ電流値、などについて討議した。

4. 講義「安全工学基礎講座 第6回 ISO 12100（JIS B 9700）の付加保護方策について」

15:25～16:30 企画運営委員会 福田隆文氏

付加保護方策について、ISO 12100の条文を見ながら、要求されている具体的な方策とともに、本質的安全設計方策や安全防護との違いなどを読み解いた。

意見交換

開口部の扉の安全な開放、ロープスイッチ、制御装置による補助具、その他の付加保護方策、機械故障への対応、などについて討議した。

5. その他

- ・ 会員からの意見や助言を活用するため、アンケートへの協力をお願いする。
- ・ 次回 346 回月例会は、7 月 15 日（金）13 時～16 時 30 分にリモートで開催する。
- ・ 当面はリモート開催を継続し、状況をみながらリモート・対面併催へ移行する。

月例会説明資料：会員専用ページに掲載

資料番号	資料名
345-1-1	「特別講演会～情報技術・IOT・コンピュータ技術を活用した安全」
345-3-1	「漏電遮断器の使用方法について」
345-4-1	「安全工学基礎講座第 6 回 ISO 12100 (JIS B 9700) の付加保護方策について」

以上